

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

「しつけ」が学力を左右する

中学受験の専門家が書かれた本を何冊か読んでみたところ、お受験のプロが「学力に繋がる最大の武器は家庭でのしつけ」だと言うのには驚きました。

口で「挨拶しましょうね」と言えば、挨拶はするようになるかもしれませんが、言われているからしているだけ、ということも多いのです。親が元気よく、大きな声で挨拶している姿を見せれば、自然と子供も同じような挨拶をするようになります。

必ずご家庭で指導頂きたいのが「時間厳守」と「整理整頓」の二つです。

この二つが守れない子は絶対に良い成績は取れません。実際に中学生でもテストの成績的には5段階評価の「5」がついて良い点数なのに「3」がつけられている子がいました。

聞くと、提出物の期限が遅れた、提出物をなくした、という理由が判明。この生徒には「中学ではテストの点数以外の評価も大きい。そんなことしてたらせっかくいい点を取っても成績は悪くて、勉強の頑張り甲斐がないでしょ？次回からは絶対に提出期限を守ること！提出すべきものをなくすなんてもってのほか！！！」と厳しく指導しました・・・。

受験専門の先生もオススメ「点描写」！！

これには驚きましたが、受験専門の先生も「点描写」をとっておきの練習法！と紹介されていました。中学受験で子供たちが苦手としている問題が図形なのです。図形問題は頭でイメージ出来れば速く解けるのですが、そのイメージが上手くいかない人が多いのです。そのためには実際に書いて、目に見える形にすることが必要なのです。

定規ではなく、フリーハンドで図形を書くことによって全体を見ながら、形をイメージする力が付くと言われてしています。

点描写では「空間認知能」という部位を鍛えるのですが、この空間認知能は「時間的感覚」「段取り能力」も向上させると言います。点描写をすることで「全体をイメージできるようになる」ことを考えると、時間的感覚や段取り能力に影響するのも納得できますね。

「気分」に左右されない子に

小学校の中学年くらいまでは勉強、勉強よりも、外で遊ばせることを意識して下さい。例えば、友だちと「かくれんぼ」をするだけでも「あそこからはこの角度は見えない」など、空間的な感覚を自然と身につけられますし、当然友だちと遊ぶ中でコミュニケーション能力や人と合わせる、順番を守るなどの基本的な対人能力を身につけます。

少しでも他の子より早く！と、机に座らせ知識を詰め込むよりはよっぽど良い勉強になります。

小学校の高学年になれば、毎日必ず勉強することを習慣づけましょう。

「今日はやる気がしないから勉強しない」という子供の発言を聞き入れてはいけません。やる気があるがなかろうが、毎日勉強するという習慣を作ることが大切なのです。

気分勉強することを覚えると、中学生になってからが大変です。親の目が行き届かなくなって「今日はやりたくない」と、勉強しない日が出てきます。それが出始めると、その頻度はどんどん多くなり、そのうち自発的な学習はゼロになります。

疲れていても、忙しくても毎日勉強させます。たとえ10分でも良いので「毎日勉強している」という習慣を付けることが大切です。(ただし、疲れているときなどは内容を易しめにする、量を少なくするなど調整は必要です)

たとえば、毎日の生活の中で、お風呂や歯磨きのようなルーティン(日課)をしないと、何となく「気持ち悪い」という感覚になります。要するに勉強もルーティンにしてしまうのです。そうすれば、勉強はしんどいことではなくなるのです。

これには当然ご家族の協力も必要になってきます。「しなさい、しなさい」では逆効果！親も一緒に勉強まではいかなくとも本を読んだり、調べ物をしたりと「子供と一緒に学ぶ時間」を共有するように努めてみて下さい。